

平成 17 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況 (連結) 平成 17 年 1 月 24 日



上場会社名 小林製薬株式会社

(コード番号: 4967 東・大1部)

(URL <http://www.kobayashi.co.jp/>)

問合せ先 代表者 代表取締役社長 小林 豊

責任者 常務取締役 グループ統括本社本部長 田中 正昭 TEL:(06)6222-0084

1 第 3 四半期業績の概況の作成等に係る事項

財務諸表等の作成に際して準拠した基準 : (中間連結財務諸表作成基準)

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識方法 : 有

との相違の有無

(内容)

当第 3 四半期における棚卸資産の棚卸高は、実地棚卸を行わず、当中間連結会計期間末にかかわる実地棚卸高を基礎として、帳簿棚卸によって算定しています。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有

連結 (新規) 3 社 (除外) 0 社 持分法 (新規) 0 社 (除外) 0 社

公認会計士又は監査法人による関与の状況 : 無

2 平成 17 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況 (平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 12 月 31 日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 3 月期第 3 四半期	165,003	1.1	13,141	6.1	12,121	3.7	6,264	11.6
16 年 3 月期第 3 四半期	166,786		13,996		12,584		5,611	
(参考)16 年 3 月期	211,670		16,123		14,127		6,677	

	1 株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
17 年 3 月期第 3 四半期	150	51		
16 年 3 月期第 3 四半期	132	94		
(参考)16 年 3 月期	157	25		

(注) 売上高、営業利益などのパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

平成 15 年 11 月 20 日付けをもって株式分割 (1 株につき 1.5 株の割合で分割) を行っており、平成 16 年 3 月期第 3 四半期及び平成 16 年 3 月期における 1 株当たり四半期 (当期) 純利益は、株式分割が期首に行われたものとして算出しております。

潜在株式調整後 1 株当たり四半期 (当期) 純利益は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

[経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期のがわ国経済は、企業収益の改善や設備投資の増加など回復に兆しがみられたものの、個人消費の回復については依然として不透明な状況で推移しました。また記録的な猛暑、度重なる台風上陸に加え、暖冬などの天候不順による厳しい事業環境が続きました。

そうした状況の中で、当社グループは経営ポリシーである「創造と革新」の精神をフルに発揮し、新市場を創造する製品やサービスの提供により顧客の潜在ニーズを開拓すると同時に、既存の参入市場に対して新たな付加価値を付けた製品やサービスの提供に努めました。

その結果、当第 3 四半期の売上高は 165,003 百万円 (前年同期比 1.1%)、営業利益は 13,141 百万円 (前年同期比 6.1%)、経常利益は 12,121 百万円 (前年同期比 3.7%)、第 3 四半期純利益は 6,264 百万円 (前年同期比 +11.6%) となりました。

主な事業の種類別セグメントの業績の概要は次のとおりであります。

家庭用品製造販売事業

当事業におきましては、天候不順による影響でカイロの売上が低迷し前年同期を下回りました。しかし 16 品目の新製品 (栄養補助食品は除く) の発売や既存ブランドの販売強化、コエンザイム Q10 の牽引などから栄養補助食品が引き続き順調に推移した結果、売上高は 70,547 百万円と前年同期に比べ 699 百万円 (1.0%) の増収となりました。利益におきましては、カイロの売上減とブランド育成のため積極的に広告

投下したため営業利益は 12,437 百万円と前年同期に比べ 481 百万円 (3.7%) の減益となりました。なお、上海小林日化有限公司と小林製薬(香港)有限公司の子会社 2 社が当期より連結対象となっております。

家庭用品卸事業

当事業におきましては、主要顧客であるドラッグストアで消費税の総額表示導入、猛暑・暖冬の影響など厳しい環境でしたが、健康食品の商品ライン充実や四国地方の卸へ新規の売上があり、売上高は 99,555 百万円と前年同期に比べ 974 百万円 (1.0%) の増収となりました。また利益におきましては規模のスケールメリットを生かしたメーカーからの商品一括仕入れや販売管理費の削減などのコスト削減を行い、営業利益は 420 百万円と前年同期に比べ 251 百万円 (148.5%) の増益となりました。

医療関連事業

当事業におきましては、国内では整形外科関連分野への注力、米国では顧客リスト買収による顧客の囲い込みを行った結果、売上高は 12,021 百万円と前年同期に比べ 69 百万円 (0.6%) の増収となりました。利益におきましては、米国内子会社のカリフォルニア州の保険制度の変更 (保険償還削減など) の影響などにより営業利益は 147 百万円と前年同期に比べ 429 百万円 (74.5%) の減益となりました。

(2) 財政状態 (連結) の変動状況

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	139,205	59,572	42.8	1,431.26
16年3月期第3四半期	136,805	54,640	39.9	1,293.93
(参考)16年3月期	128,326	54,454	42.4	1,307.16

(注) 平成 15 年 11 月 20 日付けをもって株式分割 (1 株につき 1.5 株の割合で分割) を行っており、平成 16 年 3 月期第 3 四半期及び平成 16 年 3 月期における 1 株当たり株主資本は、株式分割が期首に行われたものとして算出しております。

【連結キャッシュ・フローの状況】

(注) 金額は百万円未満を切り捨て

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第3四半期	6,695	2,411	3,510	18,702
16年3月期第3四半期	2,551	887	3,168	17,954
(参考)16年3月期	6,971	2,358	4,574	17,663

[財政状態 (連結) の変動状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期の財務状態は以下のとおりです。

総資産は前連結会計年度末と比較して 10,879 百万円増加しましたが、株主資本が 5,117 百万円増加したことから、株主資本比率は 42.8% と 0.4 ポイント改善いたしました。

増減の主なものは、流動資産では受取手形及び売掛金が 8,561 百万円の増加、棚卸資産は 2,086 百万円増加しております。流動負債では支払手形及び買掛金が 9,059 百万円増加しております。固定負債は長期借入金返済などにより 410 百万円減少しております。

(連結キャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、獲得した資金は 6,695 百万円となりました。

これは、税金等調整前第 3 四半期純利益が 11,799 百万円ありましたが、法人税等の支払額が 5,763 百万円あったことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は 2,411 百万円となりました。

これは、営業権譲渡による収入が 735 百万円ありましたが、有形固定資産の取得 1,201 百万円や米国内子会社の顧客リスト買収などがあったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は 3,510 百万円となりました。

これは、長期借入金の返済 1,112 百万円と配当金 874 百万円などによるものです。

3 平成17年3月期の連結業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

（注）金額は百万円未満を切り捨て

	予 想 売 上 高	予 想 経 常 利 益	予 想 当 期 純 利 益	1株当たり 予 想 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	215,000	13,400	6,700	159 95

[業績予想に関する定性的情報等]

天候不順の影響により子会社桐灰化学㈱の売上が低迷したことから、平成16年11月25日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

上記の予想は、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な不確定要素により実際の業績とは予想数値が異なる場合があります。